

## 新刊案内

### ◆坂井景南著 英傑加藤寛治

(ノーベル書房刊、B6判)

定価二、八〇〇円)

本県出身で旧帝国海軍の育ての親とまで評される加藤大将に格別の知遇を得ていた同郷の著者が、大将の多彩な人間像を克明に描き出している。まず第一章は、満州事変から日支事変までの激動期を中心とした「加藤大将回想記」とも言えるもので、第二章には、大将の遺稿として「倫敦海軍条約秘録」およびこれまで未公開の「加藤日記」(昭和七年一月〜一年一二月)を掲載するが、これらは戦前の昭和史研究の視点からも、きわめて貴重な資料である。さらに第三章「思い

出の人々」と第四章「わたしの選んだ道」(戦前篇)は、著者が本県で育ち福井商業卒業後、神戸や東京で戦前に活躍したさい、政界や実業界の要人との交渉のなかではぐくまれた政治観、人生観等を感じぶかい筆致で説いている。

特に注目したいのは、著者の保管にかかる全く未公開の「加藤日記」に基づく叙述である点で、はなはだ興味ぶかく、かつユニークな著作と目される。

(三上記)